

# SDGs未来都市・横浜における行動インサイトの政策活用

## —横浜市行動デザインチーム YBiT の取組—

植竹 香織

横浜市温暖化対策統括本部プロジェクト推進課



### (1) 背景と目的—YBiTの設立

【背景】国・地方を問わず政府が財政難や多様化し続ける市民ニーズに直面する中で、効果的な施策に優先的に資源を投下することの要請が高まっています。そうした要請に応える国際的な潮流がデータやエビデンスの活用であり、そのアプローチの一つとしてナッジ等の行動科学の知見の政策活用（行動デザイン）が注目を集めています。行動デザインは、予算でのインセンティブや、条例等による強制に頼らず、人々が望ましい行動を選択しやすい環境をデザインすることで、政策目的を達成する手法です。大きな財政負担を伴うことなく、施策効果を時に劇的に高めることができます。すでに日本を含む世界の政府・自治体が200以上の行動デザインチームを設立しています。

【目的】横浜市では、2019年2月に日本の地方自治体初のナッジユニット(横浜市行動デザインチーム YBiT: Yokohama Behavioral Insights and Design Team) を有志で立ち上げました。温暖化対策をはじめとする行政のあらゆる政策分野において、行動デザインの視点や手法を浸透させることで施策にイノベーションを起こし、より効果的な施策を推進して市民に還元することを目指します。

### (2) 方法—4つの戦略

#### 1. ツールキット紹介・作成

- ✓ 世界各国のナッジユニット等の発行しているツールキットの紹介 (UK BIT「EAST」「TESTS」、OECD「BASIC」、ideas42等)
- ✓ 「成功するナッジユニットの作り方」の紹介

#### 2. 事例創出

- ✓ 外部専門家の全面的支援による大規模RCT実証
  - ✓ 事業レベルで効果検証も伴う実証
  - ✓ 事業の要素レベルを改善する取組
- 各レベルの取組について、コーディネート及びコンサルティングを実施

#### 3. 人材育成

- ✓ 月例研究会(メンバー200名超、開催実績10回)
- ✓ 研修・ワークショップ(参加者100名超・開催実績3回)
- ✓ 海外ツールキットのエッセンスを現場で使いやすくチェックリスト化

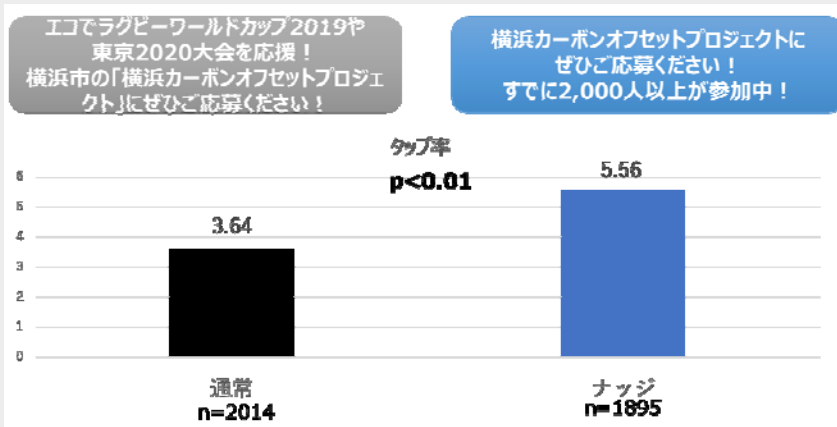
#### 4. ネットワーク・発信

- ✓ 国内外のアカデミア及び国・自治体等と連携・協働
- ✓ 積極的な対外発信 (7/15日経新聞掲載)



### (3) 結果—見込まれる成果・将来的展望

#### 取組例：市事業の広報効果を高めるプッシュ通知メッセージ実証



- 【目的】アプリを用いたより効果的な市民向け広報メッセージの検証
- 【方法】横浜市内のWi-Fiアプリ導入者3,909名に対し、2群に分けてRCTを実施 (介入群: 1,895名、対照群: 2,014名)
- 【介入内容】メッセージの単純化及び社会比較ナッジを取り入れた
- 【結果】対照群と比較して介入群のタップ率が1.92%高かった (有意水準1%)
- 【実装】プッシュ通知、広報紙をはじめとする市民向け広報の際に活用

#### 展望

幅広い区局での実践を通じて本市における行動デザイン活用のすそ野を広げると同時に、横浜市発の先端的な事例創出を行います。

すでに、温暖化対策分野、医療・健康分野、防災等、市民生活に関わる分野において取組を推進しています。

こうした得られた知見や成果については、国や自治体・大学等との連携プラットフォームを通じて、行動デザイン普及に向けた取組を行い、エビデンスに基づく政策立案の実践と普及に貢献していきます。

